



電子複写不可

昭和 二〇

# 沖繩方面海軍作戦

二頁史料

防衛研修所戦史室

③  
中文平装  
81

第二復員局殘務處理部資料課

沖繩方面海軍作戰

海軍

第一師團

第二師團

第三師團

第四師團

第五師團

第六師團

第七師團

第八師團

第九師團

第十師團

第十一師團

第十二師團

第十三師團

第十四師團

第十五師團

第十六師團

第十七師團

第十八師團

第十九師團

第二十師團

方面作戦

昭和十九年六月、七月にはマリヤナ群島を占領以來サイパン、ガム、  
マニラに於て大規模に對する飛行機多敷を整備しつつあつたが十二月  
初旬頃より我が本土の都市及重要生産施設に對する空襲を開始し其の機  
隊規模及來襲頻度を逐次増加し之が被害も莫大なる状況にあつた  
又敵は同年十月比叻攻略作戦を開始したが同年十二月中に略レイテ、サ  
マール方面の作戦を終了し昭和二十年初頭には本格的のルソン島上陸を  
開始するに至つた、然るに我が艦隊は遂に比島沖海戦に於て其の骨幹兵  
力の大部を失ひ比島に對する増援補給は殆んど絶望的となり敵を繰退す  
る望みは薄く爾後に於ける比島作戦の實施は單に敵に對する出血作戦と  
見做さるるに至つた爰に於て敵はマリヤナ群島及比島を占領し我が本土  
を距る南緯一三〇〇の海路線上に強力な二大基地を獲得して我が本土  
と南方要領との交通は漸く遮断し得ることとなつた然し乍ら敵は我が本  
土の国力及資源の破壊並に我が本土と朝鮮、滿洲、支那との交通線を有效

に奪せんが爲には更に一層基地を推進して来るものと判断された  
大本營に於ては昭和十九年末頃より敵の次期作戦に對する偵察を研究が  
なされたのであるが我が方の判断としては敵は昭和二十年二月頃航賣島  
に對して四月頃東支那海周邊の要域即ち南西諸島、台灣又は中支方面の  
何れかに進攻を開始するであらうとの結論であつた海軍側には地理  
的戰略的諸條件の關係上前者の中南西諸島特に沖繩に敵が進攻する公算  
が最も大なるものと判断して居つた  
然るに當時に於ける我が戦力を以ては随大な戦力を擧げる敵の進攻に對  
して航賣島及沖繩の双方を防衛することは困難であつた又航賣島は其の  
地理的條件が我が航空兵力を大規模且有効に使用することに困難がある  
に反し沖繩は我が空戦力投入が比較的容易であり敵が之を占領した時に  
は航賣島に比し敵の海軍並に航空基地が容易に得られ我が海軍並に  
海上交通に及ぼす脅威は甚大なるものがあるので大本營としては最少限  
度の海軍及航空兵力を以て航賣島を支援し爾來の戦力を沖繩作戦に投入  
することに決定を見た次第である

第二項 作戦準備

第一目 作戦計畫

沖繩作戦に關する大本營の企圖は帝國海軍作戦計畫大綱並に航空作戦  
に關する海軍中央協定を以て昭和二十年初頭海軍各部隊に指示せられ  
たが其大要は概ね次の如きものであつた

一、一般作戦方針

帝國海軍は激激なる世界情勢の變遷にのみ重んずる主敵米軍の進攻  
破潰に指向し爾所経緯に亘つて戦戦力を撃破し戰爭遂行上果實の擧げ  
を確保し以て敵の戦意を挫折して戰爭目的の達成を圖る

二、一般作戦指導の大綱

(一) 國海軍は戦局愈々至難なるを察知して既成の戰略態勢を活用し敵の  
進攻を破潰し速に自主的態勢を確立する  
右の自主的態勢は今後の作戦推移を洞察し速に先づ皇土及之が防衛  
に緊切な大陸要域に於て不況の急變態勢を整備し敵の來攻に當つて  
は隨時之を撃破すると共に此の間狀況の許す限り反撃戦力特に精練

な航空戦力を整備して積極不戦な作戦遂行に努むるを其の主眼とする

□ 陸海軍は比島方面に來攻中の米軍主力に對しては、積極な作戦を遂行し之を撃破して極力敵の戦力に打撃を加へつつ敵戦力の牽制に努め此の間に速かに南他方面に於て作戦準備を促進する

□ 陸海軍は主敵米軍の星土吳城方面に向ふ進攻特に其の優勢な空海兩戦力に對し作戦準備を完整して之を撃破する

之が爲に比島方面より星土南域に來攻する敵に對しては東支那海周邊に於ける作戦を主眼とし二、三月頃を目途として同周邊要地の作戦準備を速急に強化する

敵が小笠原諸島（帆蓋島を含む）に來攻する場合に對し極力之が防備強化に努め又敵の一部が千島方面に來攻する場合をも豫知し又状況に依り有力な敵が直接本土に來攻することをも顧慮して之に對し得る準備を整へる

□ 陸海軍は進攻する米軍主力に對し陸海特に航空戦力を綜合發揮し敵

戦力を撃破し其の進攻企圖を阻害する此の間に他方面に於ては優勢な敵の空軍戦力の來攻を豫期し主として陸上部隊を以て作戦を遂行する敵戦力の撃破は渡洋進攻の開始を捕へ洋上に於て痛撃を與ふるを主眼とし爾後上陸する敵に對しては補給遮断と相俟つて陸上作戦に於て其の目的を達成する

尙敵機動部隊に對しては努めて不斷に好機を捕捉し之を求めて漸次する

□ 東支那沿岸の要地の戦備を強化し南西諸島及台灣と相俟つて東支那海周邊に於ける作戦特に航空戦力の發揮に遺憾なきを期すると共に敵が帝島本土進攻に先立ち若は之に併行し有力な一部の大陸進攻あることを豫期し上海及廣東方面の作戦準備を促進強化する

□ 南方方面に於ては自活自戦態勢を確立し敵の資源及空軍基地奪回企圖を破壊するを主眼とする

□ 陸海軍は愈々機動化する敵の空襲に對し努めて其の根拠を奇襲し之が制壓を圖るの外主として帝島本土に於ける生産及交通を防衛して

治安を維持する

近く小笠原諸島（硫黄島を含む）方面に敵空襲基地が進出することあるを豫期し之が利用妨害の対策を準備すると共に特に帝都の防空準備を速に強化促進する

（八）陸海軍は敵の妨害を排除しつつ必力南方より本土に對し燃料資源を運送すると共に日滿支間の海上交通を確保する又敵の長大な作戦線に對しては不敵に之が擾亂脅威を行ひ敵の補給を妨害する

（九）必勝兵備を強期的に増強整備することに努むると共に戦法、編制兵器の創意に努め特に奇襲特攻を作戰上の要緊とし感増加する彼我の物的相對戦力の隔絶に對處する

三、皇土要域（南西諸島を含む）に於ける作戰指導要領

（一）敵の空襲に對しては努めて其の航空基地及敵後動部隊を制壓し又本土樞要部の防空對勢を強化して不斷に敵機の撃破を図る  
積極防空は航空を主体とし特に之が爲所妥の航空基地を整備し且之が秘匿掩護に遺憾なきを期する

（二）皇土要域に於ける空海よりする敵の海陸交通破壊に對し交通幹線港島の防衛を強化する

（三）皇土防衛の爲の機傑作戰遂行上の前線は南千島、小笠原諸島（硫黄島を含む）沖運本島以北の南西諸島、台灣及上海附近とし之を確保する右前線地域の一部分に於ては沈黙に止むを得ず敵の上陸を見る場合に於ても極力敵の出血消耗を圖り且敵航空基盤の造成を妨害する

（四）敵本土、南洋及上海附近に對する敵の來攻上陸に際しては陸海空戦力を綜合發揮して之を排除殲滅する又千島、小笠原南西諸島及吉原に於ては敵の進攻に先立ち以て所妥の戦力を投入して作戰準備を整へると共に感を失せず所妥の航空戦力を集中増加して之を撃破する

（五）皇土特に本土及朝鮮の作戰準備は萬端を察し速急且根本的に刷新強化に着手し激化する敵の熾烈な空襲に即應する戦場態勢を整へつつ併ね本年秋迄に之を完成する

敵の上陸企圖に對する作戰準備は情勢の推移に即應せしめるも

地方、九州及南洋方面に於て先づ速に之を完備する

航空作戦指導要領

一 陸海軍航空戦力の統合發揮に依り東支那海周邊地域に來攻を豫想する敵を撃滅すると共に本土直後防衛對勢を強化する右作戦遂行の爲に特攻兵力の整備並に之が活用を重視する

二 東支那海周邊地域（台湾、南西諸島、東南支那、九州、朝鮮）に於ける航空作戦は陸海軍航空兵力を速に同地域に展開し敵來攻兵力の進滅を斷る陸海軍航空部隊の主攻目標を海軍は敵機動部隊、陸軍は敵輸送船團とし陸軍は爲し得る限り敵機動部隊の攻撃に助力する

三 南洋沿岸方面に於ける作戦は主として陸軍航空部隊（所在部隊を主とし一部兵力を増強す）を以て敵來攻兵力の擊滅に努め爲し得る限り海軍航空部隊に之に協力する

四 南方諸島方面に於ける作戦は陸海軍一部航空兵力を以て之が確保に協力する

因此等方面確保後の航空作戦は北滿及魯南方面所在部隊の一部を以て之を遂行し印度洋方面に於ては既に所在航空部隊を以て之の企圖破滅に努める

五 日滿支那の防空を強化し且之に不攻する敵航空兵力の基地開闢を阻害する

六 情勢の變轉に對應する爲力めて準備兵力を準備し速急に之が繰返の向上を図る

七 陸海軍間は愈々特攻精神を昂揚し其兵力を可及的に増強し且其戦力を十全に發揮し得る如く爾他兵力の整備に努める

八 本土及東支那海周邊地域に於ける航空作戦に於ては陸海軍協同作戦を本則とし本土方面に於て協同作戦す航空部隊最高指揮官は協同の實を發揮するが爲作戦間同一場所に位置するを本則とする

九 全般航空兵力の運用計畫は別表第一及第二に依る

別表第一

陸軍航空兵力運用計画表

面 方 土 本				
S F A				
力兵備隊		隊部動隊計	空防地要	
多 数 兵 力 （ 主 と し て 行 政 ） を 検 出 整 備 す	四月	△ 90	△ 30	△ 400
	、 五 月 の 間 主 と し て 教 育 部 隊 よ り 可 及 的	△ 80	(2) 30	△ 45
		● 10	(2) 10	
		● 20	● 10	
		● 20	(2) 100	
		(2) 300		

南西諸島

面 方 那 支	
S F A	
定隊出陣	定隊用機
△ 30	△ 75
△ 70	○ 20
● 16	△ 30
(2) 150	(2) 50

日 計	
S F A	
△ 120	
○ 20	
△ 40	
● 10	
(2) 250	

面 方 島 南 海 印 柳	
S F A	
△ 25	
● 15	

(註) 一、本計畫の兵力は三月末目途整備のものを示し今使の情勢の推移に依り変更することあり

二、本計畫は主として南西諸島及台湾周辺に於ける作戦の場合の兵力運用を示す

三、待機は左の破損風分を示す

- △ 戦機
- 機隊
- 司令
- ◎ 特攻 (一隊 8機 / 4機 として算定)



別表第二

海軍航空兵力運用計画表

	面 方 土 本			
	(10AF)	5AF		3AF
費用費 700	$f^c \times 200$	$f^{sb} \times 10$	$f^c \times 300$	$f^c \times 40$
練習費 1300	$f^b \times 60$	$f^d \times 5$	$f^b \times 80$	$f^b \times 10$
	$f^o \times 30$	$f^{sr} \times 5$	$f^o \times 50$	$f^o \times 10$
	$f^{lb} \times 90$		$f^{lb} \times 30$	$f^{lo} \times 10$
計 2000	$f^c \times 30$		$f^{lo} \times 30$	
	$f^{lo} \times 60$		$f^r \times 20$	
		計520	計510	計70

本土防空兵力	東部	60
	中部	50
	西部	50
	本州	150
離補兵力	那東海支	150
	南四	50

(註) 10AFは作戦配備兵力として四月末を目途とし  
 増攻訓練を減成す

面方西南
13AF
$f^o \times 50$
$f^o \times 15$
$f^{lo} \times 15$
計80

南西諸島
1AF
$f^c \times 40$
$f^b \times 10$
$f^o \times 10$
$f^{sb} \times 5$
$f^{lc} \times 5$
$f^{lo} \times 5$
計85

南西諸島

南方諸島

第二章 海軍方面作戦使用兵力の整備

比島沖海戦の結果として我が艦隊の骨幹部隊は壊滅し残存兵力を以てしては大規模の計費的海上作戦の實施は不可能であつた従つて昭和二十年度初期の情勢に於ては國土外廓地帯に進攻する級に對しては勢ひ航空兵力が主体であり兼ねて扇地防衛艦艇兵力及扇地海上兵力が副次的役割を演ずることとならざるを得なかつた  
即ち敵が進攻の場合扇地兵力を以て取る期間暫短し好機を捉へて我が有  
力なる航空兵力を投入して敵勢の増長を阻るを主眼とし敵來攻の初期に  
於て航空艦隊の下に大規模な海上次戦を行ふ等は到底考へ得ざることと  
あつた依つて帝國大本營は國土外廓地帯に進攻する敵艦隊に對しては航  
空兵力の整備を第一とした

一、航空部隊の編制訓練

昭和二十年初旬日本本土に於ける航空作戦主擔任部隊は第三航空艦隊  
であり其の兵力は關東より九州に亘る本土及南方諸島及南西諸島に迄  
展開して居つた向右の外聯合艦隊附屬の第十一航空艦隊が對彼動部隊

兵力として九州方面所在した  
比島方面に於ては歴次に亘る激戦の結果同地所在第一第二航空艦隊兵力は大部分消耗し一月上旬第二航空艦隊は解散せられ其殘存兵力は第一航空艦隊に統合せられた

#### 第五航空艦隊の編制

前記の如く第三航空艦隊は殆んど本土全域に亘り其兵力を展開し作戦正面廣汎なる所攻の進攻方面は南方諸島及南西諸島の兩方面を以て消耗した飛行機隊の内地歸還後の再編訓練中のものが大部分を占め艦隊司令部の位置は木更津に在る等全般作戦指導上不具合の點が多かつたので第三航空艦隊は主として東方面所在の麾下兵力を以て南方諸島及本州東部方面に來攻する敵に備へ主として九州方面に展開中の第三航空艦隊に屬する第二十五航空戦隊及聯合艦隊に直屬する第十一航空戦隊兵力に第三航空艦隊より若干の兵力を加へて二月十一日附を以て第五航空艦隊を新設し主として東支那海周邊地域

に來攻する敵に對應する配備を整ふることとなつた右改編に依つて三月上旬頃の兵力は概ね第五航空艦隊約六百機、第三航空艦隊練成中のものを合せ約八百機に達する見込みであつた

#### 第五航空艦隊の編制

第五航空艦隊の編制に依り本土に於ける航空作戦配備は一應整備したが原態來攻敵航空兵力に對比するときは我は質量共に劣勢であつて我が本土保全航空機を有効に戦力化するの必要を認め爰に練習航空隊を作戦部隊へ成替を行ふこととなつた

即ち練習聯合航空隊を解散し三月一日附練習機及實用機教練教育中の練習航空隊を第十一、第十二、第十三聯合航空隊に取極め此の三箇聯合航空隊を以て第十航空艦隊を新設し一時練習教練を中止して作戦訓練を實施し訓練機成守機を四月末と決定した  
之に依り第十航空隊の兵力は各種實用機約一一〇〇機、練習機約二五〇〇機、計三六〇〇機となつたが四月末附實用機約七〇〇機練習機約一二〇〇機を作戦に充當し得る見込みであつた

之等作戦用機材には何れも特攻隊採用の兵装整備を實施すること  
決定せられた

尚練習聯合航空總隊麾下の飛行科練習生、整備練習生、兵器練習  
生等の教育担任練習航空隊は之を所在に應じ新に聯合航空隊を編成  
夫々各鎮守府、警備府部隊に編入し當該鎮守府、警備府管内  
の航空基地任務等を担任せしむると同時に本土決戦に備へ陸戦兵力  
としての訓練を實施した  
斯くて我が海軍航空要員養成は一時中止となつたが五月頃の情勢に  
應じ固有の教育再興をも考慮せられて居つた

(一) 第一航空艦隊の台湾轉進

在比島第一及第二航空艦隊兵力は敵の同方面來攻以來屢次の作戦に  
依つて大部分消耗したので昭和二十年一月七日附第二航空艦隊を再  
編し第一航空艦隊司令部は同方面所在航空兵力を率ひ台湾に轉進前  
後の作戦に當ることとなり一月九日第一航空艦隊司令部は台湾に移  
動兵力再建に従軍した

當時第一航空艦隊麾下實動兵力は一九五機（内特攻機約七〇機）で  
あつて一月中に第一航空艦隊に増勢せられたる兵力は各機種合計約  
一〇〇機であつた

尚第一航空艦隊は台湾に留存せる舊練習航空隊所屬練習機及練習生  
を以て特攻部隊を編制訓練し其兵力の増加を圖つた  
第一及第二航空艦隊所屬航空隊（第六三四海軍航空隊を除く）地上  
員の台湾轉進は不可能の情勢であつたので之等航空隊は第二十六航  
空艦隊に編入地上作戦部隊となり台湾轉進兵力に對しては二月五日  
附新に第一三二海軍航空隊、第一三三海軍航空隊、第二〇五海軍航  
空隊、第七六五海軍航空隊を編成し台湾轉進兵力を收容第一航空艦  
隊に歸せしめられた

(二) 陸軍航空兵力の海軍指揮下編入

本戦中最初に陸軍航空兵力を海軍の指揮下に入れたのは昭和十九  
年七月二十五日飛行第九十八戦隊及飛行第七戦隊を第二航空艦隊司  
令長官の指揮下に入れ先づ海上作戦の訓練を實施し爾後海軍航空部

隊に伍して陸軍師團隊として優秀なる成果を挙げたのに始まり前後  
屢々小部隊の局地兵力を海軍の指揮下に入れたことがあつたが大部  
隊を海軍の指揮下に入れたことはなかつた、昭和二十年初頭以降  
は南西諸島方面來攻必至と見らるるに至るや彼我航空兵力重の懸隔  
に鑑み陸海軍航空兵力の指揮を一元的に統一すべしとの意見があつ  
たが大本營陸軍部より第六航空軍(兵力約七五〇機)を聯合艦隊司  
令長官の指揮下に入ることを甲出で三月十九日以降五月二十八日  
迄聯合艦隊兵力の一部として海軍部隊と密接なる協同を保持しつ  
沖繩方面作戦の重要戦機に於て重大なる役割を果たした

(丙) 航空兵力の術力練成

- 南西諸島方面作戦に使用し得る海軍航空兵力は三月一日現在
- 第五航空艦隊約六〇〇機(概ね本土西半部に展開)
- 第三航空艦隊約八〇〇機(概ね本土東半部に展開)
- 第十航空艦隊約四〇〇機(本土各部に展開)
- 第一航空艦隊約三〇〇機(台湾に展開)

計概ね二、一〇〇機であるが各艦隊共練成乗務員を養ひ特に  
南西航空艦隊は兵力の増進と本隊航空艦隊兵力の大半以上は練成  
遂上に在つて訓練素熟の兵力であつた、之等兵力を以て海軍追  
る沖繩方面作戦に進まんが爲には従来の型式に依る用兵方法では  
底成算がなかつた特に本隊練成乗務員の術力を急速に向上せしむるこ  
とは本隊成否の鍵と考へられたので大本營に於ては本問題の解決  
には苦心する所があつた斯かる状況の下に沖繩方面作戦に對する航  
空作戦態勢が考慮されつつあつたが當時已に第一航空艦隊は全面  
特攻戦法を採用しつゝあつたので第五、第十航空艦隊新編成にあつ  
て沖繩戦の重要性に鑑み大本營は特攻戦法を重視する意圖をもち  
を内示した爰に於て在本土航空部隊も第一航空艦隊の例に倣ひ全面  
的に特攻戦法を採用することとなり其の訓練方針も特に未熟練者に  
對しては簡易にして實效を収め得る特攻訓練を採用することとなつ

た  
航空部隊主力である第五航空艦隊は既に訓練部隊の掃蕩攻撃を主目

標として備ね次の様を作戰方針を決定した  
「先づ夜間電報暗号機を以て既範圍の暗号を行ひ、暗号機を捕獲  
機接を持続する、黎明時降参した特攻隊の特攻機は、暗号機を捕  
る留機を以て敵機の降参に先ち之を捕獲封止し、夜間特攻機を捕  
獲實施して大勢を削し、續いて夜間攻撃に依り戦果を擴大せしむる  
に在つた」

右方針に基き兵力配備通信防備補給等の計畫を策定し之に基する諸  
訓練を實施した

（二）敵機偵察用兵力の配備

敵は我が本土進攻用前進根據地としてガム、ウルシー、レイヤ等を  
使用しつつあるものと判断せられた時に、敵機偵察隊はウルシーを基  
とし、レイヤと判断せられた  
之等根據地を過時偵察して、敵機を明かにすることは我が本土進攻に  
敵に於て特に重要なる事項であつた  
レイヤに對する偵察は在在時第一機動隊隊員偵察隊で實施すること

ととなつたがウルシー、ガムに對しては、特に航費高失相後、トラ  
ックを基地とする偵察隊に依り偵察を實施する必要があつた之が爲  
昭和 年 月 日 第三航隊偵察隊の形勢、敵を航費高、南島  
島地田トラックに捕獲し、敵機隊々之が補充を行ひ、航費高失相後は  
潜水艇輸送を行ふ、同島所在形勢三乃至四機の確保に努め、之等形  
勢偵察機隊は過時ガム、ウルシーの偵察を實施し、敵々重要なる報告  
を齎らし、全無作戦に資する所があつた  
同偵察機隊は昭和二十年五月十三日小澤海軍中將隊司令長官より賞詞  
を受けた

三、隘路の整備状況

（後 述）  
三、隘路特攻水上水中兵力の整備状況

（後 述）  
四、海上兵力の整備状況

南西諸島には敵め所妥の戦力を投入し防備を強化して凡ゆる作戦準備

を奪ふると共に機を失せず航空戦力を集中増加して攻米攻部隊を準備するにあつた

陸軍は南西諸島方面に第三十二軍(三師師團及混成一團旅團)を配備して居つたが比島作戦開始と共に一ヶ師團を抽出して之を台湾に移動した之が補充に對しては海軍側より艦々強き支援を行ひ沖繩強化を主張したが陸軍側と意見一致せず結局一個師團を台湾より沖繩に移動することに決したが遂に時機を失し遂送不可能となつた

南西諸島方面に所在する海軍部隊は沖繩方面根拠地隊と南西諸島航空隊であつて沖繩本島所在兵力は約七千名般管隊工員等を加へて約一萬名であつた

沖繩本島の防備は當初敵の才除撃隊を期し北中兩飛行場周辺には強固な陣地を構築して反撃對勢を整へつつあつたが陸軍一面師團の台湾抽出以後は兵力量の關係より一時北中飛行場附近陣地を撤退し那覇周辺に集結持久態勢を執らんとした之に對し大本營海軍部は陸軍部に申入れを行ひ修正せしめたが兵力不足の爲實際問題として米軍の上陸正面

兵力は極めて手薄であつた

海軍部隊は小急飛行場守備を目的として見城附近に堅固な陣地を構築して持久對勢を完備して居つた

### 第三項 沖繩方面作戦準備としての敵根拠地奇襲作戦

一、沖繩方面作戦に於ける戦果判断

大營の特攻機を使用する航空戦の様相に對しては從來其例がなく従つて沖繩方面作戦に於ける戦果判断に於ても困難なるものがあつた、勿論比島戦に於ける事例はあつたが大本營に於ては現地よりの報告書の戦果を挙げ得るものとは期待し得なかつた因つて相當内輪に見積つた取捨定の下に米軍來攻戦力と我が航空戦力とを比較検討すると概ね別表の通りであつて我が航空戦力は未熟練搭乗員に對する練成が進むに隨ひ急速に向上する情勢にあつた即ち此見地よりすれば敵の沖繩方面來攻時期は出來得れば五月末以降となることとが望ましかつた敵の來攻時機の選定を作為する手段は事前に於て敵機動部隊に致命的な一大痛撃を加ふる以外に方法がなかつた之即ち米機動部隊根拠地の奇襲が研究

せられた主なる動機であつた

二、ウルシー在泊中の米機動部隊に對する空襲  
第五航空艦隊編成直後即ち二月中旬聯合艦隊はウルシー所在敵機動部隊に對し我が本土基地より發進する長距離空襲を計畫した、然るに敵機動部隊のウルシー出發は豫想外に早く二月十六日關東地區に對し空襲を行ひ續いて硫黃島進攻作戦を開始するに至つた此間第五航空艦隊兵力は硫黃島作戦に参加せず専ら術力の練成に努め敵の次期進攻作戦に備ふると共にウルシー空襲作戦（第二次丹作戦と呼稱す）の研究準備を實施した敵機動部隊に對しては凡ゆる情報蒐集し其の動靜を監視して居つた所三月七日以後の通信情報に依つてウルシーに歸投しある公算大なるものと判断せられた。二月十七日以來第二次丹作戦の準備が實施せられつつあつたが既に進捗し實施の好機をうかがひありし所三月七日以後の通信情報に加ふるに三月九日トラップを發進した第四艦隊所屬彩雲の偵察により敵機動部隊のウルシー在泊を確認したので三月十日決行に決定した

第二次丹作戦の實施計畫の大要は次の様なものであつた

- 一、大型飛行艇一機〇三〇〇名乗員を乗せ佐田中より沖島島ウルシーを廻する航海上の天候偵察を行ふ
- 二、中型艦上攻撃機四機〇四三〇名乗員を乗せ佐田中より沖島島ウルシーを廻する航海上の天候偵察を行ふ
- 三、大型飛行艇四機一機一機乗員二機、第二機乗員二機（〇七〇〇乃至〇七三〇名乗員）を乗せ佐田中より沖島島ウルシーを廻する
- 四、銀河二十四機〇八〇〇名乗員を乗せ佐田中より沖島島ウルシーを廻する
- 五、合同ウルシーに進軍し在泊艦隊に對し特攻攻撃を行ふ
- 六、兵装八〇〇名乗員を乗せ佐田中より沖島島ウルシーを廻する
- 七、右計畫に基き十日〇八〇〇名乗員を乗せ佐田中より沖島島ウルシーを廻する
- 八、日實施した彩雲のウルシー偵察機隊の判讀の報告電報三分之一が到着したか本軍に依れば正統空襲一變在泊せるのみで他の空母の在否に關しては不明であつた
- 九、金泊地の空母在泊状況を艦隊の上級幹部を實施するの妥ありとして本日
- 十、の實施を中止し攻撃隊及偵察隊の飛行機に歸還を命じた



其の後第四艦隊よりの未着艦報到着し之に依り馬場判偵報告を添合するに正規空母八、特空母七、這種不詳四隻入港中なること判明攻撃次に行は時日の遅延を許さざるを以て大塚の部隊も必り翌十一日決行のことと考つた

向本日の天候偵察飛行の報告に依り追風のため賞速大となりウルシ  
一到着時刻を隊定の如くならしめる為各飛行機隊の出発時刻を各一時  
間宛繰下けることとした

三月十一日隊定に隨ひ第二次丹作戦を再興した、大塚偵察隊及誘導隊  
の起動不具合の爲出陣時刻若干遅れたが攻撃隊は隊定進○九二〇佐出  
陣上空に於て誘導隊と合同進軍した

途中天候僅ね良好であつたが沖島島附近以前は新にスコールがあつて  
襲上飛行を行ふ状況であつたが隊定時刻に至つてもウルシ一を發見す  
ることが出来なかつた一八三〇に至り誘導飛行機と分離後敵河隊指揮  
官機は其機の東方約二〇海里にヤツブ島を發見し直にウルシ一方向に向  
つた

當時攻撃隊隊指揮官の視界内にあつた攻撃機は十五機であつた

ウルシ一の日没は一八五二であつて攻撃隊のウルシ一突入は一九〇五  
乃至一九三〇頃であつて敵は煙火管制を實施して居らなかつたが攻撃  
隊の先任機突入以來煙火を消し爲に後続の飛行機は攻撃實施が困難と  
なつた攻撃隊二十四機進軍地を出發し内發動機其他の故障の爲鹿屋沖繩  
宮古島、南大東島、ヤツブ島に不時着陸せるもの十一機、洋上に不時  
着せるもの二機計十三機が不時着しウルシ一に突入せるもの十一機で  
あつて内機計が艦船に命中したものか不明である

指揮官機は突入時已に夜暗となり且煙霧の煙火消滅した爲に目標の捕  
捉が出来ず機を投棄してヤツブに不時着し已に不時着せる三機の搭  
乗員を收容三月十四日一五〇〇鹿屋に着した

三月十二日トラック所在形勢偵察隊のウルシ一偵察に依つて在泊空母  
に異状なきを確認し本攻撃は成功しなかつたことが確認された  
本攻撃失敗の主な原因は出發時刻を遅らしたことが及進軍途上の天候隊  
想よりも悪く飛行機隊の賞速が出なかつた爲日没後ウルシ一に到着し

たこと等にあつた  
斯くて多大の期待をかけた第二次丹作戦は失敗に終り敵の進攻速度を  
制圧することが不可能となり爾後の作戦に重大な影響を齎すに至つた

第四項 沖縄方面作戦開始前後に於ける敵機動部隊に對する作戦

一、三月上旬に於ける敵情判断

三月十一日多大の期待を以て決行せられた第二次丹作戦は失敗し敵の  
我が本土周邊地域への進攻を遅延せしめんとした我が企圖は元全に失  
敗に歸した。

通信情報其他より綜合判断するに敵機動部隊は十四日頃ウルシーを出  
撃せること略々確實であつて十八日頃九州方面に來攻する算大なりと  
判断せられた。

此の機動部隊の動きに對しては大本營に於ては既に直に沖縄方面上陸  
作戦を開始する公算絶無ではないが寧ろ向上陸作戦の基盤に行はるる  
設備的機動空襲作戦であつて九州方面の空襲終了後機動部隊は一旦ウ

ルシーに到着し、その後西方面上陸作戦部隊が來攻する公算が多いと  
の判断した際つて今次來攻の敵機動部隊に對し第五航空艦隊兵力を以  
て全面的の攻撃を實施すべきや或は攻撃を一時回避して敵の本格的上  
陸作戦開始温存を圖るべきやに對して議論が岐れた。當時第五航空艦  
隊は編成后日向後く航空兵力は漸成訓練途上に在つて一日の訓練と兼  
も衛弁の向上に重大な影響があつた。

依つて大本營に於ては今次來攻の機動部隊が攻略部隊を伴ふこと明か  
ならざる限り我が航空兵力を使用せず温存を圖ることに方針が定めら  
れ其旨聯合艦隊司令部に傳達せられた。

聯合艦隊司令部は三月十七日〇八三〇頃第五航空艦隊司令部に對し「  
敵機動部隊が攻略部隊を伴ふ場合は攻撃を實施するも然らざる場合は  
兵力を温存する如く作戦すべき旨」指令した。實際問題として本指令  
は實行上大なる困難があつた。第五航空艦隊司令部に於ては研究の結  
果對機動部隊攻撃決行の計畫準備の妥ありと認め同日一〇〇〇作戦指  
導の大要を指令すると同時に對機動部隊攻撃實施を適當とする同艦隊

司令部の意見を聯合艦隊司令官及大本營へ具申した。  
大本營及聯合艦隊司令部共右意見具申を諒とし兵力温存困難と認むる  
場合は第五艦隊司令官の所信により對機動部隊攻撃を實施すべき旨  
を折返し指令した。

### 二、對機動部隊戦術の概要

第五航空艦隊司令官宇垣纏海軍中將は三月十七日一〇〇〇時下航空  
部隊に對し敵機動部隊攻撃に關する作戰指導の大要を發令した。

當時麾下各部隊は訓練態勢に在つて兵力は各地に分散せる状況であつ  
たが急遽兵力を集結し作戰態勢に就かしめた。

次で同隊所定計畫に基き飛行艇及陸攻を以て九州南東方洋上廣範圍の  
夜間警戒を實施した所、成績は十七日二三〇〇以後敵大部隊を探知す  
ると共に之に解接を保持し此の屬機隊の報告を綜合するに敵大部隊は  
機動部隊であつて北西方に進行し十八日黎明九州東方洋上我が攻撃圍  
内に進入すること確實なりと判断せられた。

依つて第五航空艦隊司令官は十八日〇二〇〇時一戰法發動を下令し

た。本命令に依り各部隊は隊め定められた部署に依つて行動を開始し  
雷撃隊及河特攻隊は黎明攻撃を次行形勢は黎明以後重偵察隊接  
撃星隊は重間特攻隊を實施し兩宗の攻撃戰術部隊亦全力攻撃並に敵  
機動部隊を襲撃した。

敵海上機は〇四二〇頃より南九州四端方面に散在して北九州方面に來襲  
し我が航空基地を攻撃した

之が爲通信施設の被害相當大なるものがあり各基地間の通信連絡甚し  
く不良となり作戰上大なる支障を來たした。

斯くて本朝來の我が攻撃隊及偵察隊の報告を綜合するに空母三隻戰艦  
二隻其の他數隻を撃沈破し大なる戦果を擧げたものと判断したので敵  
河特攻隊（機隊）及神雷部隊の重間特攻隊を命ずると共に敵河、重  
隊（雷隊）の薄暮攻撃を企圖し形勢を以て薄暮時迄敵機動部隊に觸接  
を確保せしめ一舉に之が撃滅を期したが河特攻隊神雷部隊は通信途  
絶の不知意敵機の來襲等のため準備間に合はず攻撃を取止め薄暮攻撃  
亦準備に時間を要し夜間攻撃となつた。

十八日夕刻彩雲の觸れ中止後敵情一時中所したか夜間電探哨取候一區  
攻及飛行艇は二二〇〇以後敵部隊を捕捉し夜間觸接を持続し夜間攻  
撃隊及十九日の黎明攻撃隊を誘導した敵機動部隊は北進して十九日黎明  
明には足摺崎南方六〇哩附近に達し爾後東進し十九日午前中は室戸岬  
南方四〇哩乃至一〇〇哩附近を行功し四洲中級北九州を空襲した其の  
兵力は空母三、二、二、四隻を基幹とする四群なることを畫圖偵察の  
彩雲に依つて確認した。十九日母星二〇候を以て畫圖單獨派狀攻撃を  
實施し空母一隻巡洋艦一隻を撃沈し空母一隻を炎上せしめた十九日夕刻  
より天候次第に悪化し各部隊の状況詳細不明となり兵力整頓の妥ある  
を以て第五航空艦隊司令長官は攻撃中止を發令したが第七〇一海軍航  
空隊の母星特攻隊向二〇候程度整備可能なること判明し追撃強行のこ  
とに斷命を改められた。

十九日夜間は天候不良となり夜間索敵不能の爲敵情を捕捉すること不  
可能であつたが二十日黎明彩雲の索敵により一〇三〇迄に都井岬東方  
約一二〇哩を南下中の空母六、四、一隻を含む機動部隊を發見觸接を

持殺した。仍て母星二〇候を以て十九日同様の畫圖特攻攻撃を執行し  
セックス型サラトガ型空母各一隻に大火災を生ぜしめた。是に攻撃の  
補充を明にし薄暮及夜間の觸接により敵情の推察に努め河津岬天山  
全力を以て夜間攻撃(母星)を實施した夜間觸接は九州東方海上を  
南下中の敵機動部隊四群を未知觸接を持続した。觸接の報告を綜合  
判斷するに敵は南西播磨方面に向ふ算大であつて二十一日天候良好な  
れば神宮攻撃の好機ありと認め神宮部隊に攻撃準備を命ずると共に敵  
河天山部隊の黎明攻撃を決定し追撃戦の戦果補充を期した。

二十一日彩雲の黎明索敵により都井岬の一四五度三二〇哩に南下進退  
中の敵機動部隊を發見し敵一八候(内一六候)夜傍行(直掩)式取  
圍機五五候は一三三五發連神宮攻撃を決定した所敵機動部隊の北方約  
六〇哩附近で敵機動部隊の攻撃に遭ひ神宮部隊は全隊の悲運に遭ひ黎明  
明索敵攻撃の河天山部隊も亦大なる戦果を挙げ得ず追撃戦の成果は取  
期に反し不首尾に終つた。以上敵機動部隊に對する戦術の経過を画記  
すれば列表の如きものである。

對機動部隊戰術地圖

三 月 十 七 日 晴		三 月 十 八 日 晴		三 月 十 九 日 晴		三 月 十 日 晴		三 月 十 一 日 晴		天候日	
作戦指導	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル	一、敵機四機、北ウレ上ル 二、敵機三機、北ウレ上ル 三、敵機二機、北ウレ上ル 四、敵機一機、北ウレ上ル
機動力	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	飛行機 二機	
任務	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	夜間警戒	
行動概要	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	九機着陸 二機着陸 一機着陸	
成果	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	北緯三十一度一分、東經九十九度四分	
被害	未踏遺一機	未踏遺二機	未踏遺三機	未踏遺四機	未踏遺五機	未踏遺六機	未踏遺七機	未踏遺八機	未踏遺九機	未踏遺十機	
記事											

九三〇機化二  
七機動力攻撃を  
企及したるも  
油断に合はず

形勢五機不明

山崎大に接部  
に村に  
見とする四機

未踏遺一機

退を決定したるも退備加戦部隊を出し加不台以六夜機夜襲を以

五〇九三〇機色二七機全力攻撃を企てしたるも無効に合はす

一、土佐沖附近を行動し四機中萬方面に對し全機隊に對し全刀を注ぎて以てを進行す

二、午后より天候悪化し夜間突撃不能となり主つ全

機動部隊 〇四三〇以 約三分の一 に目標に突	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以
機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以
機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以
機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以	機動部隊 〇四三〇以

三月十九日

三月二十日

三月二十三日

動し四箇中萬... 二午市より天候悪... 不明にして兵力... 攻撃中止を命令... せる第七の一... 生向令の意見具... 申により退避決... 行を下す。

一昨夜夜間築城不... 能なりしも杉葉... の敷明築城によ... り成城助部隊を... 始見せしを以て... 第七〇一連掃隊... 隊を主攻隊兵力... として進軍を敢... 行す。  
二夜間攻撃兵力強... かず各敵城とな... る。  
三夜、二夜、三... 夜の夜間築城を... 行成部下の戦... 山形を襲撃す。  
四明日陣取調に... 備へ命令。  
五明午河川及天... 山の黎明築城... 攻撃す。  
六陣取調を以て... 動し掃隊を分す。

一夜間築城により... 敵城助部隊南下... 深溝中なるを察... 知せるを以て本... 午期黎明築城... 攻撃す。  
二杉葉の築城によ... り成城助部隊... を以て距離稍遠... き偵ありしも敵... 城の好機と認め... 陣取調を決行す。

飛行機	杉葉五	杉葉三	杉葉二	河五	警星
明築城	第二夜間築城	第一夜間築城	第三夜間築城	第六夜間築城	第七夜間築城
六五〇	一〇三〇	一四三〇			

杉葉五	杉葉二	杉葉二	杉葉二	河五	警星
明築城	第一夜間築城	第二夜間築城	第三夜間築城	第六夜間築城	第七夜間築城
〇七〇〇	二二五〇	〇八〇〇	〇八〇〇		

杉葉四	杉葉三	杉葉二	河五	警星
明築城	第一夜間築城	第二夜間築城	第六夜間築城	第七夜間築城
〇八一〇				

五機突入  
戦果不明  
約半数突入夜  
下夜間攻撃せる  
もの敵城

一〇三〇頃迄  
に都井崎東方  
約一二〇を  
南下中母各  
六、四、一を  
を含む三群を  
発見す  
一五一五生母  
二、三、三を  
を含む三群を  
発見し、  
エゼンクス連  
母一隻の中  
部隊命令中  
母一隻大発見  
戦果不明

一都井崎の一  
四五度三二  
〇強に敵城  
助部隊二群  
発見  
二空母三三  
を含む機動  
部隊三群を  
発見  
巡洋艦一隻

未詳	未詳	未詳	未詳	未詳	未詳
三機	五機				

未詳	未詳	未詳	未詳	未詳	未詳
三機	五機				

未詳	未詳	未詳	未詳	未詳	未詳
三機	五機				

三月二十一日

<p>山の奥内自島 城を下す 六回四回馬場地に 封し城を午す</p>	<p>二夜間米に上り 敵機動部隊南下 通過中なるを察 知せるを以て本 早朝米明系敵攻 撃を遂行す 二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>
<p>二夜間米に上り 敵機動部隊南下 通過中なるを察 知せるを以て本 早朝米明系敵攻 撃を遂行す 二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>
<p>二夜間米に上り 敵機動部隊南下 通過中なるを察 知せるを以て本 早朝米明系敵攻 撃を遂行す 二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>
<p>二夜間米に上り 敵機動部隊南下 通過中なるを察 知せるを以て本 早朝米明系敵攻 撃を遂行す 二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二杉葉の島嶽に上 り以て明瞭なる を以て距離稍遠 き候ありしも意 図の好候と認め 敵機隊を失行 す</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>	<p>二都井岬S一 四五度三二 〇淫に敵機 助部隊二群 発見</p>



第五項 沖縄防衛作戦

一、三月三十一日頃に於ける敵情判断

今次敵機動部隊の九州進出方面への來攻は之に引續き米攻略部隊が沖縄方面に上陸作戦を強行するものなるか取は上陸作戦の準備としての準備作戦であつて敵機動部隊が一旦後援地に引退けたら後援地を以て沖縄方面の攻略作戦を實施するものか既而時大本營に於て明かな情報を有して居らなかつた。然し敵機動部隊に與へた我が航空部隊の戦果は尠くも敵空母三乃至四隻撃沈又は大破せしめ其他の空母にも相當の損害を與へたものと判断して居つた且三月二十一日我が攻撃を受け南西諸島東方洋上を南方に避退しつつあつた。敵機動部隊に對しては二十二日も何等の情報を得ず一旦ウルシト又はレイテ方面に回投する公算の方が多しと判断した。

第五航空艦隊司令部に於ても概ね同様の判断の下に兵力の整理を實施すると共に麾下航空部隊の幹部を庇匿に集合し二十一日及二十二日の兩日に亘り作戦研究會を實施した。

然るに二十三日午前沖繩より情報に依り二十三日〇八〇〇頃より敵艦  
上機は沖繩及南大東島に來襲し戦艦、巡洋艦、驅逐艦計約四〇隻沖繩  
本島嶺ね三〇村國內洋上を遊入しつづつ砲射撃を實施中なることが判  
明し爰に於て敵の企圖に對する我か方の判断に若干の疑點を生ずるに  
至り敵情報知の必要を認め午前及午后の二回彩雲各二機を以て沖繩南  
東洋上及南大東島方面の偵察を實施したが敵機動部隊の全貌は偵知し  
得ず又台灣方面よりする唯一航空隊偵察機の台灣東方洋上の索敵に  
於ても敵の新なる機候をつかみ得なかつた。

沖繩本島よりの電探測定に依れば小林の南東五〇乃至一〇〇裡に機動  
部隊二群行動なるものの如く二十三日南西諸島に來襲の意上機は約一  
〇〇〇機に達した。

二十四日更に彩雲に彩雲の二段索敵を實施したが機動部隊の全貌は依  
然として不明であつたが各種艦船約四〇隻は前日同様沖繩本島周邊を  
遊入しつづつ砲射撃を續行し敵の沖繩攻略企圖は濃厚となつた二十五  
日の飛行索敵に依つて沖繩本島南東七〇裡乃至一七〇裡に行動中の機  
動部隊三群を発見し沖繩本島周邊の艦船は約七〇隻に増加し砲射撃  
を續行すると共に二十四日敵は伊嶺北方の諸海を開始し機動部隊は  
二十五日優良間に入泊上陸を開始した茲に於て敵の沖繩攻略企圖は感  
々決定的となつた。

## 二 作戰經過概要

### 一 敵の沖繩本島上陸迄の状況

敵は砲射撃準備の下に三月二十三日以降伊江島、優良間及沖繩本  
島西岸の諸海を開始すると共に二十五日に至り優良間列島の上陸を  
開始すると共に沖繩本島に對しては本日以降殆んど間斷なき空海の  
威嚇なる砲撃を實施した。諸情勢の斯くの如く敵が沖繩方面に本  
格的の上陸を開始することが明瞭となつたので三月二十五日二〇〇  
〇機出陣聯合艦隊司令長官は天一號作戰機隊を命令し次いで翌二十六  
日天一號作戰機隊を下命令すると共に第三航空隊及第十航空隊兵力  
を宇垣第五航空隊司令長官の指揮下に入れた。爰に於て宇垣第  
五航空隊司令長官は第三航空隊及第十航空隊兵力に對し九州

地區への進出を下令した寺向第三航空隊司令長官は二十八日前出第十航空隊司令長官は四月二日夫々陣屋に進出將旗を掲揚した第三第十航空隊の作戦可能兵力は概ね三月三十一日頃迄に九州地區に展開を完了した。此間第五航空隊は累次の敵機動部隊に對する戦闘の爲兵力の消耗多く第三航空隊兵力の九州地區進出迄は敵機動部隊に對し計画的に積極作戦を實施することは困難な實情に在つた。勝つて敵機動部隊は二十八日、二十九日の兩日に亘り再度の九州方面來攻に際しても反撃を實施するに至らなかつた。三月二十九日及川軍令部總長戰況奏上の際天皇陛下より「此度の兩西諸島方面作戦は皇國の興廢に關する重大なる戦であるから充分勵して我が作戦目的を達成するべし」との御旨業であつたので且に皇出聯合艦隊司令長官に傳達せられた皇出司令長官は麾下聯合艦隊に對し即日左の訓示電報を發した即ち

「一、後進なる御旨業を拜し奉り左の退奉答せり  
天一號作戦に關し畏多き御旨業を拜し是に恐懼に堪へず臣副武

以下全將兵殊死奮つて猛威を交んじ奉らんことを期す  
二、本艦指揮下各部隊は全力を以て殊死奮戦強靱且執拗よく迄天  
一號作戦の完遂を期すべし」と此の日北上中の敵大機送船團は  
慶長間に入泊し沖縄本島に對する敵の上陸開始は目標の間に通  
つた爰に於て皇出聯合艦隊司令長官は麾下其指揮下に入つた第  
六航空軍に對し全力を挙げて敵機送船團の攻撃を實施する様下  
令した。越えて三十一日に至り敵兵力の一部は那統の西北西約  
一萬米に在る神山寺を占領し又慶長間の占領も同日殆に完了し  
たものと推定せられた。翌四月一日に至り敵は沖縄本島西海岸  
讀谷及嘉手納海岸に對し大部隊を以て本格的の上陸を開始した  
斯かる敵上陸の初動迄の取重安時機に於て第六航空軍は其の準  
備遲延の爲此好機に及する攻撃を行ふことが出来ず海軍航空兵  
力も又再三航空隊兵力の九州進出遲延の爲敵機動部隊並に敵  
機送船團に對して有双な攻撃を加へず無底の儘で敵に土圍を許  
すに至つた。

○敵の沖縄本島上陸初期の作戦状況

三月二十五日以来沖縄本島は戦況十傳内外を含む約四十隻の艦艇及機動部隊艦上砲に依る熾烈な砲撃下にあつたが四月一日に至り早朝来一層熾烈な砲撃に依り先づ本島南岸澁川方面に對し〇七二〇敵は上陸を開始したが我が我が反撃に依り一三〇〇之を撃退した。本島西岸演具知海濱に對しては〇八三〇敵攻撃波の第一波が到着したが同方面に於ける我が我が陸上兵力の配備薄く敵に輕微な損害を與へ待たに過ぎなかつた。

斯くして敵は上陸に大なる障害を受くることなく海軍偵察に約五萬名の兵力を掃蕩させ深さ約五千米に達する橋頭堡を獲得した。沖縄北及中兩飛行場は正午頃敵の占領する所となつた。

機後の調査に依り判明したる所に依れば敵來攻軍は米第五艦隊司令長官アル、エー、スプルアンズ中將の指揮するものであつて其麾下主要部隊及其指揮官名は次の通りであつた。

聯合遠征部隊（上陸作戦に直接参加部隊）、海軍中將 アル、ケー、ターナー

遠征軍（地上軍全部を含む） 海軍中將 エス、ビー、バクナー

快速空母部隊 海軍中將 エム、エー、ミッチャー

英國空母部隊 海軍中將 エイチ、ビー、ローリングス

後方補給群（敵前地附近に行動中の部隊に對し補給を實施する油槽船及び貨物船） 海軍少將 デイー、ビー、ベアラー

第十及び部隊（レイテ、マリアナ等に進出を有する各種艦艇を以てする修理補給部隊） 海軍代將 ダブリエー、エー、カーター

水陸兩用作戦支援部隊（護衛空母、掃海艇、水中破壊隊、砲撃及び砲撃任務を擔當した砲撃艦を含む） 海軍少將 タリニ、エイチ、ビト、ランディ

艦砲射撃艦隊 海軍少將 エム、エル、デヨール

以上部隊は海軍陸軍海兵隊人員約五十四萬八千名戦術艦艇三百十八隻

補助艦艇（人員上陸用舟艇を含む）千三百三十九隻であつて敵の沖縄

本島上陸兵力は陸軍第二十四軍團（第七、第二十七、第七十七、第九

十六師團（約六萬名）兵隊第一、第二、第六、第七師團約六萬名計十二萬名であつた。

之に對し我が守備軍は陸軍は第三十二軍司令官陸軍中將牛島滿の率ゆる二箇師團半兵力約五萬名（外に現地總成部隊約四萬名計九萬名）海軍は海軍少將太田實の率ひる兵力約一萬名であつた。

我が軍は敵の上陸に際し水際にては積極的の反攻を避け我が有力なる兩飛行場を敵手に委ね兩方防禦地區に後退するに至つたので敵は大なる抵抗を受くることなく上陸地より島嶼部を横断して東海岸に達し四月四日迄に廣谷嘉手納地區を完全占領するに至つた。

大本營海軍部及聯合艦隊司令部は豫てより沖繩作戰の要訣は敵來攻軍を其上陸前及上陸時に於けて可及的多數撃滅して敵軍殲滅の端緒を啓するに在りとした隨つて現地守備軍が敵上陸時水際戰鬥に於てあく迄堅守持久し特に飛行場を確保し我が航空部隊に依つて敵船團を攻撃し得る時機を作爲することを希望したので從來屢々陸軍側に對し水際戰鬥を重視する様要望して居つたのであるが第三十二軍は豫期に反

し以上陸軍日誌飛行場を確保するに至つた。

聯合艦隊司令部に於ては現地戰鬥を敵が使用するに至れば敵機動部隊の捕捉撃滅は感々困難となり延いては沖繩作戰の遂行も不可能となる虞があるので現地軍が速かに攻勢に轉じ兩飛行場の奪還を圖るべしとの強き要望が發せられた。此の要望は大本營を通じて現地に傳へられた。現地に於ては攻勢に轉ずる爲には敵機の封殺と敵艦隊射撃部隊（戦艦一隻の火砲威力は射撃七個師團に相當す）の制壓を必要とするが故に海軍に於ては九つ隊機動部隊及沖繩馬場に於ける航空機動部隊を撃滅され度いとの要望があつた。斯くの如くして在る日を過せば遅くも四月十日迄には敵は兩飛行場を使用するに至るを以て其の以前に於て海軍としては敵に一大痛撃を與へ攻勢を有利ならしめるの要あるを痛感し四月四日に至り連日聯合艦隊司令部自身は海軍航空部隊の全力を以てするは勿論陸上特攻隊をも編成し之を沖繩に突入せしめ沖繩守備部隊と共に總攻撃を取行することに決意し下請部隊に所定の命令を發した。

即ち四月五日を期す海軍航空兵力及聯合艦隊指揮下陸軍第六航空軍兵力の全力を率けて沖縄に對する航空攻撃を行ふ所謂菊水一號作戰を計畫すると共に之に策心して當時海軍内海に待機中の第一遊撃部隊中より第二遊撃司令長官指揮の下に大和、矢矧及第二水雷戰隊所屬彗遂艦八隻を以て海上特攻隊を編成し沖縄に突入せしむることとなつた。

菊水一號作戰は我兵力整備の都合に依り遂定期日一日遅れ四月六日に實施し敵艦船に對して甚大な損害を與へたものと推定せられた。本戦團に参加した航空兵力は海軍約五〇〇機、我方第六航空軍約一二〇機であつて之に台湾所在の陸軍飛行第八師團及海軍第一航空艦隊の航空兵力も策應して沖縄攻撃を實施した。

海上特攻隊は四月八日黎明嘉手納沖に達する謀定を以て六日一六〇機、徳山を出港七日〇六〇機、頃大隅海峡を出撃して南下したか同日一二三〇機以後概ね坊の嶺の二六〇度九〇度附近に於て數次に亘り敵機動部隊艦上機延約三〇〇機の空襲を受け大和、矢矧以下彗遂艦四隻

は沈没し沖繩突入作戰は失敗に終り、艦隊の残存艦は翌八日佐世保に歸投した。

在沖縄第三十二軍は七日夜を期し總攻撃を開始し第六十二師團は陣内の敵軍を撃退し又徳山島に對しても折込を實施し一部に於て成功したが定期的な戦果を挙げ得ずして攻撃を中止するに至つた。

爾後西海軍航空部隊は相助力して四月十二日菊水二號作戰を同十六日菊水三號作戰を實施し在沖縄敵艦船攻撃を行ふと共に海軍航空部隊は四月六日以降十七日迄の間に機動部隊に對し前後八回に亘り晝間攻撃を行ひ何れも相當の戦果を挙げたが敵の上陸作戰には大なる妨害を與ふることが出来ず、敵は四月一日以降十日迄の間、有力なる被檢化部隊を伴ふ兵力約六ヶ師團を北は名護より南は大山、我如古、和字嶺を通ずる線に至る地域内に掃蕩せしめ四月十六日には伊江島攻略を開始するに至つた。

### ③爾後に於ける作戰狀況

敵は概ね四月十日頃迄に約六師團の兵力を沖縄本島に掃蕩し、爾後

約十日間の準備期間を置いて四月九日より本格的の總攻撃を開始した。爾來五月上旬迄は大山、和字岬の嶺より首里を逼する東西線に至る地區一帯に於て彼我一進一退の激烈なる戦闘を繰返した。

當時我が航空部隊は某次の攻撃に依り兵力損耗し沖縄周邊の敵攻略部隊船団に對し積極的な艦間攻撃を實施すること困難な状況であつた。依つて四月二十七日より同二十九日夜間沖縄艦船（菊水四號作戦）を實施したが五月四日第三十二軍が總攻撃を開始するに當り之に策應の爲菊水五號作戦を實施した。然るに第三十二軍の總攻撃は一部に於て戦局を進展せしめ得たが兵力消耗大なる爲五日夕刻に至り攻撃を中止し島嶼地に後退するに至つた。

敵の機動部隊に對しては我が軍は常時之が捕捉破壊に努めたが四月二十二日に攻撃を實施した後は敵機動部隊は概ね沖縄本島以南海面に後退し陸上作戦の支援に任じ之が捕捉攻撃の機會少く四月下旬頃に至り沖縄方面の飛行場整備と相俟つて機動部隊の大部はウルシーに歸投したものと推定せられた。

茲に於ては第三航空隊に於て編成訓練中の第四師団隊員河上十郎を以て五月七日ウルシーに泊り機動部隊の攻撃を企圖した。中途天候不良の爲飛行機隊は中途より引返すの止むなきに至つた。

マリアナ方面を基地とするB二九編隊は四月十七日南九州地區各地の攻撃を開始し浦佐治んど連日の如く大編隊攻撃を反覆するに及び我が航空作戦の實施を著しく困難ならしむるに至つた。

聯合艦隊司令長官は各領守府麾下の雷電戦團機隊を四月二十三日以降陸軍方面に集中しB二九の運用に當らしめ相當の戦果を挙げ得たが敵の來攻を阻止することは出来なかつた。

我が航空部隊も沖縄作戦開始以來連日の航空攻撃に依り兵力の消耗特に制空戦團偵察隊雷電隊等以ての消耗甚大であつて早急に之が補充も困難な状況にあり陸上作戦に於ても逐次敵に在迫せらるる状況であつて戦局の前途は暗澹たるものがあつた。大本營海軍部に於ては戦局打開の方策として四月下旬頃より小型船艇多數を以て沖縄に陸軍兵力を搬送海上運せしめる案を研究し陸軍側と折衝したが陸軍

は之に向ふに至らなかつた。

此間大本營は聯合艦隊に對し連上艦に對する大本營の企圖を内示し聯合艦隊も其旨みを以て作戰指導を行ひ第三次丹作戦を再興することとし又極力沖縄島邊の敵機動部隊を捕捉撃滅すると共に沖縄方面所在艦船に對する攻撃強化の方針を採つた。

右方針に基き五月十一日菊水六號作戦を實施し十二日第三次丹作戦實施の決定の所ウルシー偵察の結果敵機動部隊の不在なるを確認し本攻撃を取止めた五月十三日十四日は九州南方海面に出現した敵機動部隊を攻撃し十五日以降は連日沖縄基地及艦船攻撃を續行した。以て通信情報を経合判断するに五月十四日頃有力なる敵機運送船團はウルシーを出撃し沖縄方面の艦船の動静又活潑化し敵は何寺かの新作戰を企圖するが如き兆候を呈した。

陸軍に於ては此機に乗じ五月二十四日空挺部隊を沖縄北中津飛行場(所謂接戦作戦)し一時兩飛行場の機能を對止するに至つた。海軍も之に氣應菊水七號作戦を企圖したが兵力の集中地に合はず空

二十五日實施したが大なる戦果は擧げ得なかつた。

五月下旬敵は約二個師團の増援部隊を沖縄に上陸せしめ以て陸上に於ける攻撃感々激化し五月三十一日には那覇市内に侵入六月四日には小湊及澁川東方方面より上陸を開始し沖縄作戦は戦後の段階に突入した。六月十二日以降沖縄所在陸上兵力は最後の突撃を取行し翌二十一日米軍當局は沖縄に於ける日本軍の組織的抵抗が終了した旨公表するに至つた。

此間我が陸軍航空部隊は反島海上部隊に協同極力敵攻撃の被害をうかかつたが同方面の大侯小長の高防壁な作戦を實施し得ず六月七日菊水九號作戦六月二十一日菊水十號作戦を實施し僅かに友軍の苦難を減ひ得たに過ぎなかつた。

### 三 海上特攻隊の沖縄突入作戦

陸軍作戦終了后第二艦隊の大部は内地に歸投したが其の巡洋艦隊の主力を失ひ且敵艦隊も大和、長門、榛名等の三隻のみであつて艦隊の兵力の均勢は破れ舟ひ戦略單位としての艦隊を編成すること



は殆んど凶難な状況であつた。之に加ふるに燃料問題深刻化し昭和二十年一月には第二艦隊として任島泊地に碇泊し訓練に従事し得たものは大和矢矧及第十七第四十一艦隊の駆逐艦五隻に過ぎ及状況であつた。

二月中旬第四航空戦隊及第二水雷戦隊昭南より歸還し第四航空戦隊は豫備艦に輸入せられ第二水雷戦隊は第二艦隊に合同せられた。三月一日現在の第二艦隊の編制は次の如きものであつた。

第二艦隊		第二艦隊司令長官 田中	
第一航空戦隊	大和、大坂、島城、信濃、平島、龍鳳	第二水雷戦隊司令官	
第一水雷戦隊	矢矧、第七驅逐隊、第十七驅逐隊、第二十一驅逐隊、第四十一驅逐隊		
第二艦隊司令長官		第二水雷戦隊司令官	

三月十九日米機動部隊の本土空襲の際其一部兵力は尖閣港及附近の我が国軍艦隊の攻撃を行つた。

任島沖碇泊中の第二艦隊に對しても約七〇機の敵機襲撃し主として大和に攻撃が集中せられたが戦米被害共に軽少であつた。

其後本戦局に關する研究が行はれたが防空艦隊以外に驅逐艦は對空兵裝貧弱であつて對空防禦には大なる期待を得ず又大和に於てすら大なる戦果を挙げ得ざること等將來の戦局に對し大なる危懼を抱かしむるものがあつた。此の研究會に於ては見る可き成果もなく單に艦形陣は概ね一、五千乃至二千の半徑を適當とする船隻以外にはより一層の強訓練を必要とすと提議せらるるに過ぎなかつた。爾後艦隊の諸訓練は一時に對空戰術に取重きを置き夜間戰術、電測射撃、電測射撃第二斜連魚雷の利用水測訓練等が重視せられた。

是時第二艦隊に充當せられた燃料は行功中平常用合計戦艦、巡洋艦は十二動一、五晝夜分給送艦は十二動二晝夜分に過ぎなかつた。

三月二十六日米機動隊長岡列島に上陸を降合するや第二艦隊及第十一水雷戦隊は共に霧結敵艦を元撃すべき命令に接し即日任島錨地より大和四驅艦隊完成後第二艦隊は二十八日吳より任島沖に向航した當時第二

遠征司令長官の聯合遠征司令長官より受領して居つた命令は第二艦隊は津佐水道より出撃し大隅海峡を経て佐世保に向航待機するものであつて此行動によつて沖縄方面に膠着の傾向を謀、恣せられた敵機動部隊を我基地航空機の威力圏内に誘致して之に痛撃を加へんと企圖したものであつた。

二十九日早朝光島沖出港佐世保回航の途中九州南部に敵機動部隊飛行機が來襲したので佐世保向航を中止し夕刻防府沖に入港待機した此の日以后連日B-129は敵隊上空に現はれ偵察を持続した。

四月一日に至り米軍は嘉手納附近より沖縄本島に上陸を開始し北中兩飛行場は直に敵の占領する所となり旬日を出てずして敵側が兩飛行場を使用し得るの状況に立至つた。

四月二日聯合遠征司令長官は四月五日を期し沖縄及島嶼の米軍に對し航空機攻撃（菊水一號作戰）を決定すべき旨の命令を發し同四日に至り五日の總攻撃を六日に延期すべく發令した。

し大和、矢矧、第四十一連隊、第十七連隊を以て海上特務攻撃隊を編成し沖縄突入作戦を遂行すべし旨の命令が下された。茲つて第二艦隊は六日（六〇）宇都浦出港、島山に四航大和以下沖縄突入部隊各艦に燃焼油を供給し不燃油の供給等を行ひ取回準備を終へた向本行動に第七連隊の艦隊二十一連隊の戦術、初精を加ふることとなり沖縄突入部隊の編制は次の如きものとされた。

第二艦隊	大和	第二水雷艦隊	第二艦隊司令長官
		第四十一連隊（冬月、涼月、朝精、初精） 第十七連隊（祝風、雲風、濱風、龍）	
		第二水雷艦隊司令官	

同日電出聯合遠征司令長官は並に對し次の訓示電を發つた。

「帝國海軍部隊は陸軍と協力空軍の全力を發揮して沖縄島島嶼の取返に對する總攻撃を決定せんとす

皇朝の興隆は正に此の一挙にあり茲に特に海上特攻隊を編成し壯烈無比の突入作戦を命じたるは帝皇海軍力を此の一戦に結集し光輝ある帝朝海軍海上部隊の雄略を披露すると共に其の栄光を後世に傳へんとするに外ならず各隊は其の任務を遂げたるを公には聞はず感々殊死奮闘隊を此の艦に派遣し以て皇朝無窮の命を確立すべし」と

第二艦隊は八日黎明時諸手段に於て皇朝無窮の命を確立すべし」と

を出港し途中伊勢艦に於て皇朝無窮の命を確立すべし一九三〇頃豊後水追を巡

迎對海軍飛行序列に占位し速力二〇節にて南下して翌日七日〇六〇頃大隅海峡を通過した。本行動中夜間米潜水艦に発見された如き候があつた。

七〇〇に至り二一〇度にて艇針形陣を前向き速力二十四節で南下を断じた。七三〇に至り艦隊の東方に米飛行機二機北上中なることを発見した第五航空隊より派遣せられた零式戦闘機約二〇機は〇八〇〇艦隊上に到着し夜一一〇〇頃海上空襲隊を實施した。皇朝は天候は風弱く海上は平穏であつたが翌日潮天候に依りれ上進見後には不利な天候であつた。

九〇〇頃逐次明補は艦隊改革の海軍形而上の落伍した

一一三〇頃皇朝の東方約二萬六千附近に皇の大艦一機航中なるを発見次いで同もなく奄美大島の皇朝哨より「小機隊約二五〇機北上中」の電報を受けた。

一二〇〇頃に至り皇朝の電報隊は皇朝は皇朝約一〇〇村附近より北上近接中の大編隊群を察知した。一二三〇頃對空戦闘を開始した。皇日は皇軍多き為對空戦闘には頗る困難を極めた。

即ち米機は皇朝に接近し皇朝は皇朝をせられ皇朝は皇朝の如きも目標捕獲の殆んど不能の状況であつた。又皇朝が低い為皇朝の如きも目標捕獲の時には此に皇朝は皇朝下候かるか如き現象を呈した。斯くて米機部隊は皇朝は皇朝に皇朝三〇〇機を以て皇朝に皇朝を反撃し皇朝は皇朝に對し大なる反撃を遂へ得ず一五〇〇頃大和沈没し矢矧及皇朝は皇朝、皇朝は皇朝にして皇朝は皇朝、皇朝は皇朝の皇朝行不能となり其の皇朝を皇朝に皇朝の皇朝を皇朝した本皇朝皇朝は皇朝の皇朝の二方

○度九〇艦附近であつた。  
状況新くの如くなつた為、重出部台艦隊司令長官は海上特別攻撃隊の沖  
繩突入作戦の中止を命じ佐世保四航を指令した。  
八日艦隊は冬月、雪風、初霜は〇九〇〇頃、赤月は一一〇〇頃、天々佐世  
保に入港した。

海上特別攻撃隊の沖繩突入作戦に對しては、我が基地航空部隊は、艦隊  
部隊の直接攻撃制壓を以て協同するを主旨とし、艦隊の上空直衝隊等の  
派出は最少限度に止むる方針であつた。

該方針に基き、予選第五航空隊司令長官は四月七日早朝より、築城隊を  
以て九州南方洋上を展眺團に侵襲し次の如き延七群合計正規空母一三  
方至二一隻の艦隊部隊を撃見した。

- 一 〇九〇〇那朝の六八度一二〇進に正規空母二特空母一戦艦二を占む
- 二 〇九〇〇那朝の九〇度五五進に正規空母四を占む一群
- 三 〇九〇〇那朝の一二五度九〇進に正規空母三戦艦二を占む一群

- 四 〇九〇〇那朝の一三六度一一五進に正規空母四を占む一群
  - 五 〇九〇〇那朝の一四二度九〇進に正規空母一戦艦一を占む一群
  - 六 〇三三八石垣島の一一五二度二二〇進に正規空母を占む一群
  - 七 〇一二四〇那朝の七五度一六〇進に正規空母二を占む一群
- 以上の如く、艦隊部隊の全滅は明らかとなつたので、一一〇〇頃、戦艦  
約六〇隻、護衛の下に、艦隊約四〇隻、河及國軍司偵特攻一四隻を特選  
せしめ、艦隊部隊の特攻隊を實施した。其結果は困難であつた  
が、無情情報に依り特攻隊の大半は、攻撃を實施したもの、の如くであつた  
が、我が我が海上特別攻撃隊の大半は、攻撃の目的、招来するの結果に終つた。  
戦後の我が我が海上特別攻撃隊に致命的損害を招来するの結果に終つた。  
戦後の我が我が海上特別攻撃隊に致命的損害を受け、甚大なる損害を  
蒙つたことが判明した。

航空部隊の作戦状況  
沖縄方面作戦に充當し得る我が海上航空兵力の主力たる第五航空隊  
は、編成後日尚、第三、第十航空隊は編成未済の兵力大部分を占め

敵が三月下旬乃至四月上旬、沖縄方面の攻略作戦を實施するものとせば、航空作戦上夜の邊、事態は不測なるものであつた、之が爲三月十一日決行した第二次丹作戦に多大の期待を掛け、敵の米攻隊を遅延せんと試みたが、同作戦失敗し、敵機動部隊は三月十八日九州方面に米襲引隊を四月一日沖縄本島に本格的に上陸し、敵の軍安敵隊に於て之に大打撃を與ふる事が出来なかつたが、兵力具備を促進し四月六日に至つて沖縄に對する組織的大規模の航空攻撃を實施した之即ち菊水一號作戦であつて、爾後極力我が航空兵力の整備に努め、敵機動部隊の捕捉攻撃に努むる一方、沖縄の攻撃に努め、六月二十二日遂に十四の菊水作戦に於ける使用兵力は別紙第一の如くである。

三月十七日以降八月十五日迄に於ける沖縄方面作戦に於て使用した海軍航空兵力は延べ約六一二五機であつて、攻撃を實施したる飛行機は三四〇九機、内特攻々率は一四八一機であつた。其の詳細は別紙第二乃至第五の如くである。

別紙第一

菊水作戦使用兵力

(菊水一號乃至菊水十號)

駒木一號作戦(四月六日)

制空	r°	214 (内陸軍20)	-----214機
(目標)	rbc	30特攻	
	rd	22	52
(河内附近)	r°	60特攻	-----179機
	rd	4v	113
	rbc	4	
(飛行場)	rno	14	14

晴・柔・信  
兵の他

r10 4  
rr v  
-----13機  
計 406機  
(内陸軍20機)

駒木二號作戦(四月十二日)

制空	r°	161 (内陸軍16)	-----161機
(目標)	r1b	12	
	r	16	
(河内附近)	rcb	20特攻	62
	rr	2特攻	
(河内附近)	r1b	12特攻	
	r°	13特攻	148機
(河内附近)	rd	2v特攻	64
	r大	6特攻	
(飛行場)	rno	22	22

計 323機  
(内陸軍31機)

菊水三號作戦 (四月十五日乃至十六日)

制空 -- r<sup>o</sup> 102 (内陸重12)

r<sup>Mc</sup> 16 } 122機

攻撃 ----- 302機

(對敵機)

r <sup>T</sup>	3
r <sup>Nc</sup>	1
r <sup>lb</sup>	20
r <sup>天</sup>	26
r <sup>bc</sup>	50 特攻
r <sup>機</sup>	60
r <sup>b</sup>	10 特攻
r <sup>lb</sup>	8 特攻

198機

(神戶附近)

r <sup>b</sup>	19 特攻
r <sup>o</sup>	20
r <sup>7</sup>	20
r <sup>bc</sup>	20
r <sup>lb</sup>	12
r <sup>天</sup>	10
r <sup>大</sup>	6
r <sup>lo</sup>	6

93機

(飛行場)

r <sup>lo</sup>	5
r <sup>bc</sup>	3

11機

自衛具の他

r <sup>T</sup>	10
r <sup>d</sup>	2
r <sup>lo</sup>	2

15機

計 437機 (内陸重12機)

菊水四號作戦 (四月二十五日乃至二十九日)

制空 r<sup>o</sup> 50 (内陸重12)

攻撃 r<sup>Nc</sup> 20

(敵機)

r<sup>bc</sup> 33 特攻

r<sup>lb</sup> 10 r<sup>bc</sup> 2 特攻

r<sup>lo</sup> 6

r<sup>lb</sup> 14

r<sup>重</sup> 15

(對神戶附近)

r<sup>天</sup> 12

r<sup>o</sup> 12 特攻

r<sup>b</sup> 20 特攻

r<sup>Nc</sup> 18 特攻

r<sup>st</sup> 2 特攻

(飛行場)

r <sup>重</sup>	5
r <sup>天</sup>	4
r <sup>Nc</sup>	62

偵察案敵機自衛具の他

r <sup>T</sup>	16
r <sup>lo</sup>	15
r <sup>d</sup>	2

計 318機 (内陸重12機)

菊水五號作戰(五月三日乃至四日)

制空 r° 6.3

架機・偵察・其他

以擊

r° 11

r<sup>r</sup> 4

r<sup>1b</sup> 6

r<sup>10</sup> 4  
9 機

r° 10 特攻

r<sup>d</sup> 1

(對沖繩附  
近艦船)

r<sup>cb</sup> 20

122

r<sup>大</sup> 7

r<sup>SI</sup> 28

r<sup>S</sup> 28

r<sup>陸</sup> 40

143 機

(飛行場)

r<sup>10</sup> 9

r<sup>1b</sup> 4

r<sup>ap</sup> 21

計 235 機

菊水六號作戰(五月十日乃至十一日)

制空

r° 6.5

r<sup>10</sup> 9

攻撃

r<sup>cb</sup> 28

r<sup>sb</sup> 6

(對機動部隊)

r<sup>b</sup> 18

46 機

(對飛行場)

r<sup>b</sup> 10

32 機

r<sup>1b</sup> 6

r<sup>通</sup> 6

r° 15

r<sup>ST</sup> 2 特攻

52 機

(對沖繩附  
近艦船)

r<sup>大</sup> 4

偵察 架機 其他

r<sup>cb</sup> 11

r<sup>10</sup> 8

r<sup>1b</sup> 6

r<sup>r</sup> 5  
13 機

計 208 機



菊水七號作戰(五月二十三日乃至二十五日)

制空	r <sup>c</sup>	115			
攻擊	r <sup>No</sup>	28			
(對機動部隊)	r <sup>1c</sup>	22	特攻	5.0	
	r <sup>tb</sup>	26			
	r <sup>1b</sup>	9			
	r <sup>重</sup>	9			
(近海附近)	r <sup>0</sup>	10		9.6	
	r <sup>白菊</sup>	20	特攻		
	r <sup>b</sup>	10			
	r <sup>大</sup>	12			
(飛行場)	r <sup>10</sup>	18		2.2	
	r <sup>1b</sup>	4			
	r <sup>r</sup>			1.4	
	r <sup>MQC</sup>			4	
	r <sup>c</sup>			4	
	r <sup>HT</sup>			1	3.3
	r <sup>10</sup>			8	
	r <sup>d</sup>			2	

偵察隊共ノ他

計 316機

菊水八號作戰(五月二十七日乃至二十八日)

制空	r <sup>No</sup>	6	9.1		
	r <sup>0</sup>	85			
攻擊	r <sup>1b</sup>	6			
	r <sup>重</sup>	11			
	r <sup>0</sup>	4			
	r <sup>10</sup>	4			
	r <sup>SD</sup>	7			
(對沖繩的)	r <sup>No</sup>	14		9.9	
(近海船)	r <sup>1b</sup>	3	特攻		
	r <sup>c</sup>	4			
	r <sup>HT</sup>	15			
	r <sup>白菊</sup>	31			
	r <sup>No</sup>	16		2.2	
	r <sup>10</sup>	6			
	r <sup>10</sup>			3	
	r <sup>d</sup>			1	
	r <sup>HT</sup>			2	
	r <sup>r</sup>			3	
					9

偵察隊内ノ他

計 221機

菊水九號作戰（六月三日乃至七日）

偵察機 攻擊機 其他

制空	$r^0$	6	4					
攻撃	$r^{1b}$	1	2					
	$r^{\text{重}}$	1	5					
(對沖繩附近) 艦	$r^{5b}$	8			5.1			
	$r^0$	4						
	$r^{Nc}$	6						
	$r^D$	6		特攻				
	$r^{10}$	4						
(飛行場)	$r^{Nc}$	5		9				
	計	1	7	7	7			
	$r^T$					1	7	
	$r^c$					3		
	$r^{5b}$					2		
	$r^{5T}$					6		5.3
	$r^{Nc}$					1	3	
	$r^{10}$					1	1	
	$r^D$					1		

菊水十號作戰（六月二十一日乃至二十二日）

制空	$r^0$	1	1	6				
攻撃	$r^{1b}$	4						
	$r^{\text{重}}$	1	3					
(對沖繩附近) 近艦船	$r^0$	3						
	$r^{5b}$	1	6					
	$r^{\text{自衛}}$	1	1		特攻			7.1
	$r^{5T}$	6						
	$r^{\text{大}}$	6						
(飛行場)	$r^{cb}$	3						
	$r^{10}$	1	1		3.0			
	$r^{Nc}$	1	9					
	計	2	2	4	4			

別紙第二

沖縄方面作戦に於ける使用兵力数に戦果報告表

（使用兵力（三月十七日以降終戦迄の日本本土及び台湾より作戦せる陸軍航空兵力））

W.A. 哨戒・偵察・索敵	741		
B. 制空	1662		
U. 攻撃	3409		
D. 其ノ他	313		
計	6125		
(甲) A. 對機動部隊攻撃	特攻以外	498	特攻以外
	特	781	特
B. 艦船攻撃	特攻以外	687	特
	特	648	同上計
C. 基地兵の祖攻撃	特攻以外	743	同上計
	特	481	
	計	1928	
	特	1481	
	同上計	3409	

特攻以外	3月	80	3月	61	141
	4月	3	4月	241	384
	5月	72	5月	133	205
	6月	39	6月	38	97
	7月	21	7月	7	28
	8月	10	8月	9	19
計		385	計	489	874

（註）本数字は現存記録に依るものなるも記録の亡失乃至脱漏等の爲實際の数字は本表よりも遙かに多きものと認む

四 機 隊

空母	撃沈 撃破上	5 4	特設 空母	撃沈 撃破上	3 1 1	飛行機	撃墜 撃破上	2 2 1 1 2 3
戦艦	撃沈 撃破上	1 1	巡洋艦	撃沈 撃破上	2 2 7 3 4	その他	飛行機 撃破上	2 2 2 1 2 3
駆逐艦	撃沈 撃破上	1 9 0	艦巡	撃沈	2	火、柱	92ヶ所	
駆逐艦不詳	撃沈 撃破上	1 2 1 1 7 4 8	掃海艇	撃沈 撃破上	1 1 7 8 2		4本	
掃海艇	撃沈	3						

(註) 本表数字は實施部隊よりの報告を累計したものであるも實際の戦果は本表数値よりも遙かに下廻るものと認む

別紙第三

沖繩方面作戦に於ける特攻機の使用状況

(一) 天空襲撃部隊關係 (5AB、3AB、10AP關係)

月 日	機 種	機 数	任 務	成 果	損 傷	備 考
3- 2	f1b	2	黎明特攻	天候不良引返	f1b X 11機落	
3-11	f1b	24	ウルシ-飛行場攻	不明	f1b X 9機人自爆 f1b X 11不時着大破	
3-18	f1b f1b 撃	6 20	KdB特攻	不明	未X6 1/3 機人焼死	
3-19	f1b f1b	5 20	"	"	5機突入	
3-20	f1b	20	"	"	半バ以上突入	
3-20	f1b	20	"	"	不明	

エゼンクス型X1中  
部命中  
サラトガ型X1大破

3-21	f1b	15	KdB特攻	不明	不明
	f1c	18	神雷攻撃	ナシ	全滅
	f0	55	四口具地		不明
	f1b	7	慶良浦開港 KdB攻撃	BX1直撃 OX2效果不明	未X5 被弾X1
3-27	f0	5	神龍開港 KdB 攻	不明	未X5
	f1b	4	種子島 SKdB 攻	2艘A突入ノ雷アリ	未X4
4-2	f0	30	KdB攻撃	ABUニ對シ4艘突 入又ニE效果不明	不明
	f0	24	沖繩北端794B KdB攻撃	大型OORBニ直撃 效果不明	未X16
4-3	f0	21	沖繩南方KdB 攻	約半數突入アリ	不明
	f0	20	大島南方KdB 攻撃	大半A-Uニ突入	
4-6	f0	30	KdB攻撃	BX1命中 OX1突 入又ノ他不明	未X14 大X1
	f0	22			

4-6	f0	15	沖繩北端特攻	中型船X1撃沈 0ニ突入4艘其他不明 水上艦突入4艘	不明
	f0	45			
4-6	f0	49	海上補給艦隊	BX2 OX3 dX9 TX5 WX3 不X12 3 大型船X3 小型船X2 警戒(大波表上) BX3 OX6 dX3 TX6 WX2 小X2 不X9 火柱 大波表X3	
	f0	30			
4-7	f0	11	KdB特攻	大半突入	
	f0	12			
4-7	f0	2	KdB攻撃	不明 突入4艘 不明	未X9 未X3
	f0	2			

4-11	fbb	50	K d B 攻擊 意外炸彈 K d B 爆炸 攻擊	11 破 A 突入 4 破 B 擊突入	其他不明	不明				
	fbb	9								
	f1b	5								
	f1b	12								
	f重	14								
	f重	9								
	f天	8								
	f1b	12					K d B 特攻	八破突入		
	fbo	26					攻擊	大半突入		未X13
	f97	13					沖繩剛進特攻			未X20
f99	29	沖繩艦隊攻擊								
f特佐	8		B X 1 擊沈 B X 1 命中		未X5					

4-14	f00	21	德之島 18880 K d B 攻擊	突入 4 度 1 標	確實	未X5 未X7				
	f124	7								
	fbo	8					優良圖 A 攻擊	不明		
	fNo	1					沖繩飛行場制	新襲 = 成功		
	f0	10					艦特攻			
	f97	19					沖繩艦隊特攻	0 突入 X 3 4 擊突入 X 4		未. 自. 未X39
	f97	10								
	fbc	20								
	f1b	12								
	f天	10								
f天	6									
fbc	20									
fbb	10	K d B 特攻								
f1b	8									
fbo	30	K d B 攻擊	突入 撞數 22							

4-17	fD 撃	10	K d B 架隊 攻撃	敵機 X 1 突入 止 A X 2	撃星未帰還 X 9
	fM B	30			
	f1 B	4			
4-22	fD 撃	15	對 K d B 特攻	不 X 1 突上 大油散氣泡発生	
	fDc	20			
	fNc 撃	4			
4-25	fNc	4	K d B 架隊 攻撃	敵空母 2 突入ヲ報テ	未 f <sub>0</sub> X 1
	fNc	4			
	f <sub>0</sub> 97	8			
4-28	f <sub>0</sub> 97	8	仲連隊 敵艦攻撃	A = 突入 X 1 0 X 1 爆 発 3 分間 B = 突入 1 突入 X 3 不 = 突入 X 1 d 留撃 X 2	未 X 2 4
	f <sub>0</sub> 97	8			
	f <sub>0</sub> 97	8			
	f <sub>0</sub> 97	8			
	f <sub>0</sub> 97	8			
4-28	f <sub>0</sub> 97	8	仲連隊 敵艦攻撃		
	f <sub>0</sub> 97	8			
	f <sub>0</sub> 97	8			
	f <sub>0</sub> 97	8			

4-29	fDc	33	K d B 特攻	A 突入 X 8 其他突入 X 11	未 X 2 7
	fDc	21			
	fDc	20			
5-4	fD	7	泊地艦艇攻撃	突入 4 機	
	f <sub>0</sub> 97	10			
	f <sub>0</sub> 97	10			
	f <sub>0</sub> 97	10			
	f <sub>0</sub> 97	10			
5-7	f <sub>0</sub> 97	28	泊地艦艇攻撃	B X 1 0 X 1 撃沈 Bor U X 1 = 命中ヲ報テ	未 X 6
	f <sub>0</sub> 97	28			
	f <sub>0</sub> 97	28			
5-11	f <sub>0</sub> 97	7	泊地艦艇攻撃	B X 1 0 X 1 撃沈 Bor U X 1 = 命中ヲ報テ	未 X 6
	f <sub>0</sub> 97	7			
	f <sub>0</sub> 97	7			
5-11	f <sub>0</sub> 97	2	泊地艦艇攻撃	A 突入 3 0 突入 3	自未 X 2 3
	f <sub>0</sub> 97	2			
	f <sub>0</sub> 97	2			

5-11	f <sup>o</sup> 天	10	冲繩艦隊攻擊		
	f <sup>2</sup> 夜	4			
5-14	f <sup>b</sup> 夜	18	KDB 索敵攻擊	A突入XX3 A線見X6 艦隊突入XX1 艦隊見X7	未X22
	f <sup>b</sup> 夜	28			
5-24	f <sup>b</sup> 夜	20	冲繩周邊攻擊	不明	艦隊突入セウモノノ
	f <sup>b</sup> 夜	20			
5-25	f <sup>1b</sup> 夜	22	KDB 索敵攻擊	2艘A突入. 1艘B突入 1艘不詳突入	自X4
	D	10			
	f <sup>1b</sup> 夜	12			
5-27	f <sup>1b</sup> 夜	20	冲繩艦隊夜間 待攻	OX3 aX1 T X X1 T中X1 擊此 其ノ他效果不明	
	f <sup>1b</sup> 夜	11			
	f <sup>1b</sup> 夜	4			

5-28	f <sup>1b</sup> 夜	11	冲繩艦隊夜間 待攻	6艘突入 1艘突入	
	f <sup>1b</sup> 夜	3			
5-3	f <sup>1b</sup> 夜	4	冲繩艦隊夜間 待攻	1艘突入	3隊个々突入
	f <sup>1b</sup> 夜	6			
5-9	f <sup>1b</sup> 夜	5	艦隊間艦隊 攻擊	2艘河津中ノ0突入 突入	未X3
	f <sup>1b</sup> 夜	6			
6-21	f <sup>1b</sup> 夜	11	冲繩周邊待攻	5艘中型艦 1艘A 1艘B 三突入	自X10
	f <sup>1b</sup> 夜	8			
	f <sup>1b</sup> 夜	6			
6-22	f <sup>1b</sup> 夜	6	冲繩泊地待攻	不明	未X7
	f <sup>1b</sup> 夜	8			
6-25	f <sup>1b</sup> 夜	14	冲繩泊地攻擊	T 2艘突入 確實 3艘突入	
	f <sup>1b</sup> 夜	11			
	f <sup>1b</sup> 夜	5			



6-27	f <sup>BT</sup> 特攻	1	沖繩開港船 特攻	突入確責	未X7
7-25	f <sup>BT</sup> 特攻	5	沖繩開港船特攻	2機突入確責	
8-13	f <sup>DC</sup>	5		A. 原船二各1機突入	
8-15	f <sup>D</sup> 特攻	11	沖繩開港船特攻 特攻	7機突入	

□ I A F 部隊

月日	機種	機数	任務	戦果	被害	備考
4-1	f <sup>O</sup>	4	特攻機隊	不明	f <sup>O</sup> X1大破	
'	'	'	'	'	ナシ	
4-3	'	'	'	'	f <sup>O</sup> X1未	
4-6	'	'	沖繩開港船 特攻機隊	'	f <sup>O</sup> X1不時着	
'	f <sup>D</sup>	3	特攻	'	f <sup>D</sup> X3未	
4-25	f <sup>O</sup>	4	特攻機隊	ナシ	ナシ	

4-30	f <sup>O</sup>	30	KdB特攻	不明	不時着機中? 機大破
5-4	'	16	'	A大=11機命中 撃沈機1 A小X1機沈 A小X1機上停止	f <sup>O</sup> X13自 f <sup>O</sup> X1不時着機
5-9	'	10	'	A小X1機沈 空船直行機X2=3 機命中	f <sup>O</sup> X4突入 f <sup>O</sup> X1自燃 f <sup>O</sup> X4未
5-15	'	4	'	不明	f <sup>O</sup> X3未 f <sup>O</sup> X1不時
5-18	'	8	'	'	f <sup>O</sup> X3未

(備考)

P1b	-----	陸上爆撃機	PNU	-----	夜間戦闘機
Pb <sup>機</sup>	-----	陸上爆撃機	PFR	-----	偵察機
Pb	-----	陸上爆撃機	Kd B	-----	機動部隊
P10	-----	陸上攻撃機	A	-----	航空母艦
Pc	-----	戦闘機	A	-----	空母
Pc	-----	零式戦闘機	AA	-----	特空母
Pd	-----	陸軍戦闘機	B	-----	戦艦
Pcb	-----	天山艦上攻撃機	O	-----	巡洋艦
P97	-----	九七式艦上攻撃機	Q	-----	潜水艦

神武方面作戦ニ於ケル天皇製艦部隊ノ作戦状況

(待以タテヲホク)

日	機種	機数	任務	艦	出	積	備考
2-14	P1b	6	哨戒	ナシ		ナシ	
	P4F <sup>機</sup>	2					
	POR <sup>機</sup>	1					
2-15	P1b	11					
	P10	2					
	Xd	6	夜間哨戒	ナシ			
2-16	P1b	7	哨戒				
	P1 <sup>機</sup>	5					
	P10	4	夜間哨戒	ナシ			

【ラニゾンジニ機大型機  
ラシキモノ一機発見】

都庄岬 122° 260ニ敵  
Pcラシキ四機発見

f10x1 艦橋